

高齢者福祉施策の見直しについて



質問者
鈴木 眞徳 議員

町では、小児医療の助成や高齢者に対して手厚い施策が数多く展開され、多くの町民が恩恵を受けていることと思えます。

そこで、平成28年度予算編成にあたりお聞かせます。

(1) 高齢者のインフルエンザワクチンの接種には1000円の自己負担ですが、近隣市町では1500円の自己負担をしているようです。

松田町においても自己負担を増額しても、その財源を何か別の福祉施策に充当するようなお考えはありませんか。

(2) 敬老祝金が平成27年度予算で417万5千円が計上されています。敬

老会で70歳以上の方に段階的に渡されているとは思いますが、元気なお年寄りが増えているのではと考えます。この敬老祝金を見直すお考えはありませんか。

A

**時期をみて
政策決定
していく**

回答 (町長)

(1) インフルエンザワクチンの接種率は、ここ数年47%前後で推移し、昨年は1638人で今年度は1700人を上回る見込みである。他の1市4

町は、平成26年に自己負担1500円としている。松田町は、1000円のままである。ワクチン単価が約600円値上がりをしたので、将来を見据えて、自己負担金額の改定を検討していきたい。

(2) 平成27年度の実績では、373万円を支出した。今後の敬老祝金の支

出予定額の推移を見ると、団塊の世代が高齢期に入り、29年度から70歳到達者が2000人を超えるなど急激な増加が見込まれる。

管内の1市4町をはじめ近隣市町を参考にしながら、時期を見据え、皆様にお諮りして、政策決定していきたい。

松田町の未来に繋がる投資的事業を！



質問者
田代 実 議員

これまでの本山町政はソフト事業が多く、まちづくりの礎となる投資的

事業が少ないようです。平成28年度以降の予算で、松田町の未来に繋がる次の事業についてお伺いします。

(1) 新松田駅南口駅前広場整備事業と街中への接道

昨年10月6日の全員協議会で今後の事業計画が示されましたが、年度別事業計画とその財源・完成年度が不明瞭でしたので詳細説明を。

さらに、南口から仲町屋町営住宅を抜け川音川右岸堤防、文久橋までの町道の整備計画は。

(2) 砂利線跡地の整備事

A

**前向きに
投資的事業を
推進する**

回答 (町長)

昨年12月議会で私の質問に対し、「常光沢に橋を架け砂利線跡地と一体的な町道の整備をした」という回答を町長からいただきました。今後の取り組みは。

(1) 事業進捗率は60%、平成32年度を完成目標に、事業費の55%は国の補助金を活用し、残りは



道路整備計画は優先度を考慮し対応 (仲町屋町営住宅地内の町道)

一般財源と起債を充当する。また、街中への接道は、28年度に沢尻地区の歩道新設工事を行う。

仲町屋町営住宅から川音川右岸堤防を経て、文久橋までの整備計画については、概略設計までできていますが、優先度を考慮しながら対応していく。

(2) 宅地造成と道路整備を一体的に整備する事業として捉え、官民連携の「公募型プロポーザル手法」などの採用を検討している。9月頃までに計画概要を示したい。

この計画についても、地域の方のご理解をいただきながら、事業を進めていきたい。